

国の「統計軽視」は

「国家崩壊」を招く

ここ数年、国の礎となるべき統計数字や公文書の取り扱いのズサンさが目立つ。財務省による文書改ざん、防衛省のPKO日報の隠蔽、厚労省の勤労統計の恣意的とも思われる操作など、これまでに日本を支えてきた主要官庁で重大な不祥事が次々と起こっている。国の統計や公文書は、将来に残すべき国民共有の知的資源であり、国民にとっても公正・公平で信頼できる基礎資料であるべきはずなのだが……。このような惨状は、どういった背景のもとに生じているのか、また、その結果、国の将来や国民生活にどのような悪影響が懸念されるのかを「アベノミクスよろしく」「国家の統計破壊」などの著者に聞く。



2020

3/12 「木」

入場
無料

開始 18:00 終了 20:00 受付 17:30

高知共済会館

COMMUNITY SQUARE 高知市本町 5丁目 3-20

主催 公益社団法人 高知県自治研究センター
〒780-0862 高知市鷹匠町 2丁目 5-47 TEL088-822-6460



講師

明石 順平 JYUNPEI AKASHI

1984年、和歌山県生まれ、栃木県育ち。弁護士。東京都立大学法学部卒業、法政大学法科大学院修了。主に労働事件、消費者被害事件を専門に弁護を行う。ブラック企業被害対策弁護団事務局長。著書「アベノミクスよろしく」「データが語る日本財政の未来」「国家の統計破壊」（いずれも集英社インターナショナル）「人間使い捨て国家」（KADOKAWA）